

有害化学物質の実態調査の結果は、ウェブページやデータ集・論文等で公表。食品事業者や消費者も日本の実態データとして参照、品質管理等に活用。

＜例＞ 有害化学物質の実態調査結果（H15-H30）をデータ集として公表

平成29－30年度分を令和5年2月追加

- 総分析点数：約44万点
- 調査品目数：農産物65、畜産物6、水産物30、加工食品71、飼料3
- 有害化学物質：かび毒、重金属（カドミウム、鉛、水銀）、ヒ素、植物に含まれる自然毒、ダイオキシン類、アクリルアミド、クロロプロパノール類、多環芳香族炭化水素類、3-MCPD脂肪酸エステル類、グリシドール脂肪酸エステル類、トランス脂肪酸、ヒスタミン、残留農薬 等

※国産の食品の安全性向上のための当省の取組を海外にPRすること等を目的とし、英語版データ集（H25-28年度）も作成し、公表

【調査結果とその活用】

- わが国で生産された食品及び飼料のほとんどは安全性が高いことを確認
- 一部の品目・有害化学物質では、現在も調査を継続し、低減対策を検討・実施
- 国内及び国際的なリスク評価や実施規範、基準値の設定におけるデータとしても活用

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/survei/result.html

https://www.maff.go.jp/e/policies/food_safety/Health_of_Consumers/index.html

